

九段会館テラス



歴史的価値保存のための構造計画について

新たな補強を最小限とすることで地上部にある保存室内部空間への影響を避け、かつ既存内外装材の剥離等も抑えるため、既存ドライエリアを免震クリアランスとして利用した基礎上免震を採用した。外周部は地下1階外壁開口部下での免震とすることで外壁開口部の保存を可能とした。室内側の一部を柱頭免震とし地下1階の有効活用を図った。1階正面玄関底部分は、デザイン切り替え部の柱脚台座天端の目地部を利用して滑り支承を納め外観に配慮した。保存棟は文化庁より登録有形文化財の登録を受けている。今後の長期使用に当たり既存躯体を調査して、一部でコンクリートの中性化が進んでいること、地下1階でコンクリート強度の低い部分があることが判明した。中性化対策策として再アルカリ化工法、低強度コンクリート対策として一部の柱で既存コンクリートを撤去して打ち直しを行った。



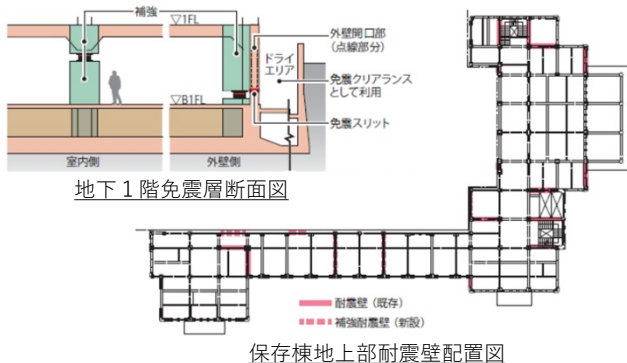
上野正夫 鹿島建設(株) 構造設計統括グループ
担当者コメント

単なる耐震補強でなく保存を目的とした免震レトロフィットは、初めての経験であった。中性化対策、低強度コンクリート対策など、歴史的に重要な建物の改修として良い事例と考える。

建築主：合同会社ノーヴェグランデ
設計：鹿島・梓 設計工事監理業務共同企業体
工事監理：鹿島・梓 設計工事監理業務共同企業体
施工：鹿島建設株式会社東京建築支店
計画地：東京都千代田区
免震装置：鉛プラグ入り積層ゴム、弾性滑り支承、剛滑り支承



旧九段会館の北側と東側をL字型（オレンジ部）に保存、保存範囲（保存棟）は免震レトロフィットとし、解体部は超高層の新築棟がエキスパンションを介して建てられた。



B1階の既存ドライエリアを免震クリアランスとして利用する基礎上免震を採用、地上部は保存室への影響を避けて補強を最小限とした。